

日本の対ミャンマー民主化支援

発表者：市原麻衣子 氏
一橋大学法学研究科
国際・公共政策研究部 准教授

日本政府は2011年より、自由化を開始したミャンマーに対する民主化支援を最重要課題の一つと位置付けてきた。ただし、実際の支援内容はいわゆる「民主化支援」からは若干の乖離が見られる。本報告では日本外交における対ミャンマー民主化支援の意義を明らかにし、支援内容を紹介した上で、当該内容の支援が民主化支援の文脈で語られるのは何故かについて検討を試みるものとする。

市原麻衣子氏プロフィール

ジョージワシントン大学大学院政治学研究科博士課程修了 (Ph.D.)。関西外国語大学外国語学部専任講師、准教授を経て、一橋大学大学院法学研究科准教授 (現職)。Carnegie Endowment for International Peace「Rising Democracies Network」プロジェクト研究員 (2013年～現在)。専門は国際政治学、日本外交、民主化支援。インタビューを中心的な研究手法として用い、特に東南アジア (インドネシア、ミャンマー、タイなど) に対する日本の民主化支援に関して分析を行っている。

著作に“Japan’s Democracy Support to Indonesia: Weak Involvement of Civil Society Actors,” Asian Survey (2016); “Japan’s Strategic Approach to Democracy Support,” Carnegie Endowment for International Peace (2014); “Understanding Japanese Democracy Assistance,” The Carnegie Papers (2013)などがある。



日時： 2016年11月4日 (金)
15:30～17:00

会場： 広島大学 東広島キャンパス
国際協力研究科 (IDEC) 小会議室

司会： 友次 晋介
(平和科学研究センター 准教授)

※どなたでも参加いただけます (予約不要)